

“白バラ”は
明るい選挙の
シンボルです。



選挙季報

第93号

発行 新宿区選挙管理委員会・新宿区明るい選挙推進協議会 〒160-8484 新宿区歌舞伎町1-5-1 ☎5273-3740
ホームページ ● <https://www.city.shinjuku.lg.jp/kusei/index10.html> ツイッターアカウント ● @shinjuku_senkan (新宿区選挙管理委員会)

2021年度 明るい選挙ポスターコンクール審査会

結果発表



安 亜 蘭さん
(大久保小学校 6 年)

入選
小学生の部



矢田部 大義さん
(西新宿小学校 5 年)

東京都最優秀賞

令和 3 年度の明るい選挙ポスターコンクール審査会の結果をご紹介します。
新宿区では今年度、小学生 105 点・中学生 40 点・高校生 19 点の計 164 点の応募がありました。
審査会においては、入選・佳作あわせて 47 点を優秀作品として選出し、東京都へ推薦した結果、新宿区では初の東京都最優秀賞の受賞が決定いたしました。
本紙面では、新宿区の優秀作品のうち、入選作品（小学生 10 点・中学生 10 点・高校生 4 点）をご紹介します。たくさんのご応募、ありがとうございました。



佐 後 友花菜さん
(柏木小学校 5 年)



掛 巢 凜さん
(津久戸小学校 5 年)



岩 崎 莉 歩さん
(鶴巻小学校 5 年)



大 内 杏 菜さん
(戸山小学校 2 年)



大 澤 英 貴さん
(早稲田小学校 3 年)



鈴 木 仁 菜さん
(富久小学校 2 年)



ミヤツ ス ハンさん
(落合第三小学校 6 年)



八 木 唯 花さん
(落合第三小学校 6 年)



五十嵐 未那子さん
(落合第二中学校 2 年)



飯 塚 優芽乃さん
(西早稲田中学校 1 年)



浅 野 文四郎さん
(西早稲田中学校 1 年)



黒 江 理恵子さん
(四谷中学校 1 年)

入選
中学生の部



郡 司 妃 華さん
(西戸山中学校 3 年)



桑 山 美奈代さん
(西早稲田中学校 3 年)



川 波 心 希さん
(落合第二中学校 2 年)



亀 谷 千 佳さん
(落合第二中学校 2 年)



向 綸 子さん
(落合第二中学校 2 年)



志 村 海 樹さん
(落合第二中学校 2 年)

◆ 令和 3 年執行の選挙結果報告 ◆

今年度は、2 つの選挙が執行されました。その結果をご報告いたします。

【7 月 4 日執行】

東京都議会議員選挙 投票率

	今回	平成29年	差
新宿区	41.89%	49.34%	-7.45%
都全体	42.39%	51.28%	-8.89%



東京オリンピック・パラリンピックの開幕を目前に控えて執行された東京都議会議員選挙。新宿区・東京都ともに投票率は前回から大幅ダウンとなりました。これは、過去 2 番目の低さでした。

【10 月 31 日執行】

衆議院(小選挙区選出)議員選挙 投票率

	今回	平成29年	差
新宿区	56.00%	53.44%	+2.56%
都全体	57.21%	53.64%	+3.57%



初の任期満了後の執行、そして解散から投票日まで 17 日間という戦後最短の日程。まさに異例づくしの選挙でした。投票率は、新宿区・東京都ともに前回比で若干のプラスとなりました。

入選
高校生の部



三 瓶 真さん
(東京文理学院 2 年)



神 澤 愛 葉さん
(東京文理学院 1 年)



乾 菜々美さん
(東京文理学院 3 年)



鈴 木 創 心さん
(東京文理学院 2 年)

令和3年度 模擬選挙授業実施報告

平成25年、たった「1校」から始まった模擬選挙授業（選挙出前授業）も、来年度で10年目を迎えます。「本物そっくりの投票体験ができる」「楽しみながら選挙の大切さを学べた」等々、評判が評判を呼び、今では、当区立小学校のうち7割以上の学校でご活用いただけるまでになりました。今年度末までに合計20校を実施予定です。今号では、既に実施済みの学校の中から、その一例をご紹介します。

1 選挙に関する講義

選挙管理委員会の職員が、図やイラストを豊富に盛り込んだパワーポイントを使用して、質問やクイズを織り交ぜながら、選挙に関する講義を行いました。講義の内容は、政治家の仕事、選挙の種類、選挙制度の歴史、投票率の現状等から構成され、一票の大切さについて学びます。



令和3年12月13日 余丁町小学校

2 候補者・政党演説

講義の後は、候補者・政党党首の熱のこもった演説が始まります。党首が一人で演説を行う学校、グループ内で役割を決めて複数で演説を行う学校等、形態は様々です。たすきをかけて、マイクを握りしめる姿は、本物の候補者そのもの。聴く側にも緊張感が伝わってきます。



令和3年12月10日 大久保小学校



令和3年12月2日 江戸川小学校

そして、選挙で候補者や政党等を選ぶことが、自分の生活にいかに関わっているのかを知り、選挙に行くことの重要性を、身近な具体例とともに感じてもらう。最後に「18歳になるまでに自分ができること」について考えます。どの学校の児童も、質問に対して積極的に挙手をし、主体的に参加していました。



令和3年12月22日 落合第三小学校

演説は、政策を書いた模造紙を掲げて行う児童に加え、最近では、自作のパワーポイントを使って、プレゼン形式で行う児童も増えてきました。その他、政党のマスコットを作ってアピールをしたり、演説の中で投票依頼の「歌」を披露したりと、聴衆に強く印象付けるための工夫が凝らされた、ユニークな学校も見られました。

3 投票体験

演説が終わると投票が始まります。投票箱や記載台、投票用紙の材質まで、本物を使用して、リアルな「選挙」を体験してもらいます。投票所の最高責任者である投票管理者には、実際の選挙でも協力をお願いしている明るい選挙推進委員の方々に出席を依頼。どこまでも本物に拘ります。



令和3年12月16日 愛日小学校



令和3年12月9日 落合第二小学校

投票の手順は、選挙啓発活動で当委員会とタイアップをしている「早大模擬選挙班」のメンバーが、デモ形式でわかりやすく説明。投票用紙を受け取ってから、投票箱に投函するまでの一連の流れについて、順を追って説明していきます。また、児童2名には、投票を見守る役割である投票立会人を経験してもらい、選挙の「管理」も体験することが出来ます。

4 開票・結果発表

開票作業では、仕分けトレイを使用して、児童2、3名に、実際に分類作業を体験してもらいました。その後は、投票用紙の枚数を数える本物の「投票用紙計数機」を使用して、得票数を確定させます。開票管理者席では、本番と同様、選挙管理委員会の委員長が見守ります。



令和4年2月8日 落合第六小学校



令和3年12月17日 落合第一小学校

開票中も、待機中の児童を決して飽きさせません。開票が如何に厳格な手続きで行われているのか、どのくらい時間がかかるのか等、選管職員と早大模擬選挙班が話す場面を設けたり、また「自分が初めて投票に行った際の体験談」を大学生に話してもらったりなど、与えられた約2時間を最大限に活用します。最後に結果発表とまとめを行って終了となります。

令和4年1月10日はたちのつどい



新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、やむを得ず式典中止となった昨年の「はたちのつどい」。今年は、会場が従来からの京王プラザホテルに戻り、式典こそ行わないものの、写真撮影コーナーや新成人の投票立会人募集など、若年層向けの選挙啓発を行いました。新成人の皆様、おめでとうございます。

【主な選挙の供託額 及び 供託物没収点】

選挙の種類	供託額	供託物が没収される得票数（没収点）
衆議院議員（小選挙区）	300万円	有効投票総数×1/10未満
参議院議員（選挙区）	300万円	有効投票総数÷その選挙区の議員定数×1/8未満
都道府県知事	300万円	有効投票総数×1/10未満
都道府県議会	60万円	有効投票総数÷その選挙区の議員定数×1/10未満
指定都市の長	240万円	有効投票総数×1/10未満
指定都市議会	50万円	有効投票総数÷その選挙区の議員定数×1/10未満
その他の区市の長	100万円	有効投票総数×1/10未満
その他の区市の議会	30万円	有効投票総数÷その選挙区の議員定数×1/10未満

※ここでの「区市」の「区」は、東京23区を指します。

◆ 供託金と没収点のおはなし ◆

～ 立候補するにはお金が必要？ ～

公職に立候補をする者は、その届出の際、候補者ごとに一定額の現金（又は国債証書）を法務局に預け、その証明書を提出しなければなりません。これを「供託」といいます。

供託は、当選を争う意思のない人が、売名行為や選挙の妨害など、政治家として活動することとは無関係な目的で、無責任に立候補することを防ぐために設けられた制度です。

これにより、その候補者や政党等の得票数が、一定の数（供託物没収点）に達しなかった場合や、立候補を辞退した場合は、供託されたお金や国債証書は原則すべて没収され、国や都道府県、市区町村に納められることになっています。

もちろん、供託物没収点に達した者は、当選・落選に関係なく、選挙後に返還されます。供託の額や供託物没収点は、選挙の種類によって様々です。【右表参照】

編集後記

令和2年4月に、新メンバーでスタートを切った広報委員会も、あつという間に2年が経とうとしています。この間に発行した『選挙季報』は合計3紙。うち2紙は、電話やメール、郵送等を駆使して校正を重ねる日々。まさに新型コロナウイルスとの闘いでした。

コロナ禍での選挙啓発活動については、きつと様々な意見があることでしょう。しかし、私たちにはそれを継続していく使命があります。なかなか効果が見えない根気のいる活動ですが、その時代の潮流に合わせ、いま何ができるのか、何をやるべきなのかを見極めながら、今後も活動を続けて参ります。



編集長 深井 三代子（榎町地区）
編集委員 萩野 弘子（四谷地区）
編集委員 遠藤 睦子（若松町地区）
編集委員 勝元 秀男（大久保地区）
編集委員 内藤 昇利（柏木地区）